

(4) 検証授業の分析と児童の変容

本研究では、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育てる授業づくりを目指してきました。そのために、表現活動に生かすための段階的な鑑賞活動を設定し、図画工作科の学習が生活や社会とつながっていると実感させる手立てを取り入れました。「鑑賞活動を表現活動に生かすことができたか」「図画工作科の学習が生活や社会とつながっていると実感できたか」、この2点について児童のワークシートの記述やアンケートを基に学級全体と抽出児で見取りました。

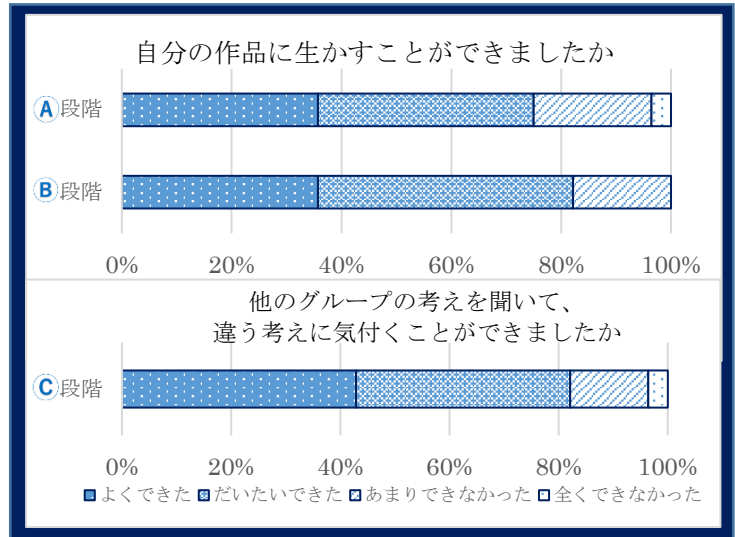


図1 鑑賞活動の効果に対する自己評価の変化

<学級全体の変容>

ア 鑑賞活動を表現活動に生かすことができたか

段階ごとの鑑賞タイム (p. 2 図3 A B C 段階) について児童は図1のように自己評価しています。鑑賞タイムが表現活動へ「生かすことができた」と答えた児童は素材鑑賞のA段階では75%、中間鑑賞のB段階では83%となり、B段階の方が上昇しています。このことから「自分の作品に生かすことができた」と実感できたことがうかがえます。作品鑑賞のC段階では80%以上の児童が自分や自分のグループと違う考えに気付いたようです。

また、図2「鑑賞タイムは役に立つと思いますか」の問いに、検証授業前の調査では、「とても役に立つ」「役に立つ」と答えた児童は67%でしたが、授業後には97%に増加しました。一方、「役に立たない」と答えた児童は、その理由として「自分のやり方を貫きたいから」という建設的な意見を述べています。

「鑑賞タイムでどんなところが役に立ちましたか」の問いには、図3のように「作品をつくる時の参考にしたい（発想や構想の能力）」という意見が最も多く、続いて「アイデアが浮かぶ（発想や構想の能力）」「どうやってつくればよいか分かる（創造的な技能）」「友達の作品のよさが分かる（鑑賞の能力）」と、表現活動に生かすことだけでなく、形や色を中心に鑑賞の視点を意識しながら「みる」ことが、図画工作科で求める様々な能力につながっていることがうかがえます。

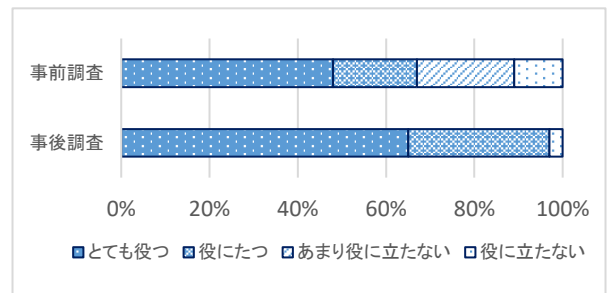


図2 質問「鑑賞タイムは役に立つと思いますか」

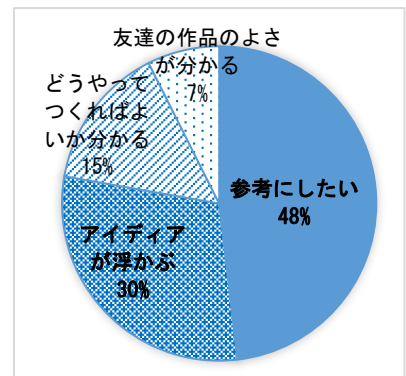


図3 質問「鑑賞タイムでどんなところが役に立ちましたか」

イ 図画工作科の学習が生活や社会とつながっていると実感できたか

題材全体を通して、高齢者を元気づけるために、また、学校外に作品が展示されることを意識させて活動に取り組みせました。作品展示後には学校外の方からの評価を頂きました。

次頁図4のように「生活の中で図工の学習が役に立っていますか」の問いに、「役に立つ」「少し役に立つ」と答えた児童が増え、「あまり役に立たない」「役に立たない」と答えた児童は半数に減りました。

学校外に展示され、それを見られた方から直接感想や手紙をもらったことが喜びややりがいにつながり、図画工作科での学習が生活や社会の中で役立っているという実感が持てたのではないかと考えます。

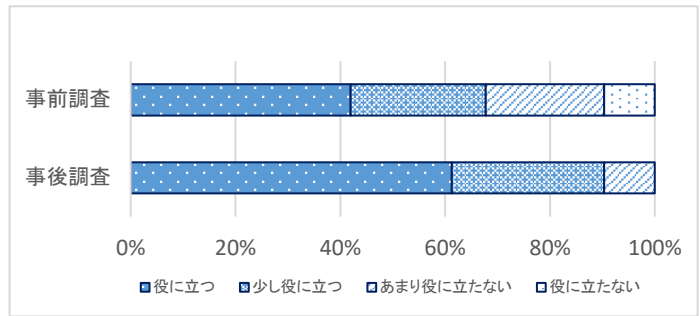
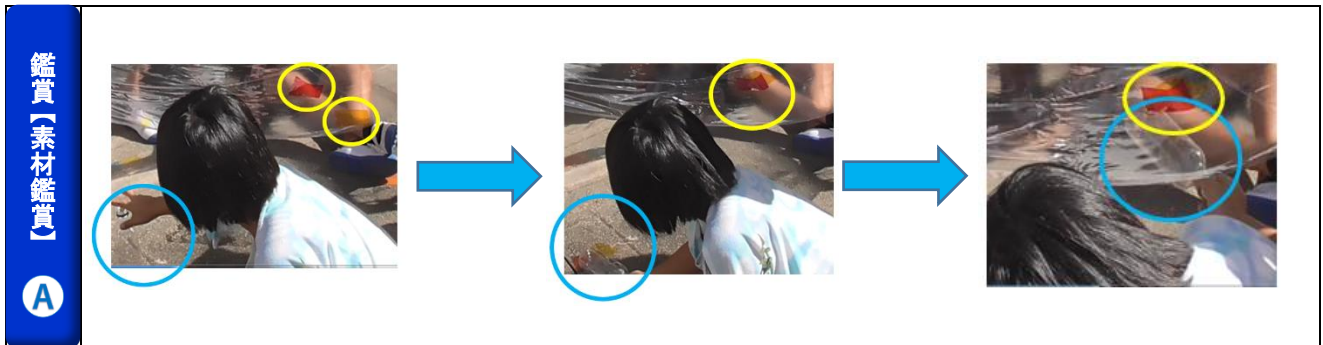


図4 質問「生活の中で図工の学習は役に立っていますか」

＜抽出児の変容＞

本研究の効果を抽出児のアイディアスケッチ、ワークシートや振り返りの記述、作品等を基に述べます。

抽出児のI児は、事前アンケートによると「図工はとても好き」だが、「アイディアは浮かぶがどんな風につくってよいか分からない」と答えていました。日頃から「発想から表現へ」と、どうつなげてよいか分からず困ることがありました。



I児は素材鑑賞の時は、ペットボトルとカラーセロハンを組み合わせ、光を通した見え方の違いを試していました。始めは、2色のカラーセロハンを別々に透明ビニールシートの上に置き、ペットボトルを地面に置きました。次に、2色のカラーセロハンの一部を重ね、地面のペットボトルを寝かせ、色の写り方を確かめていました。最後に透明ビニールシートのすぐ下にペットボトルを持ってきて、再度色の写り方を見比べていました。試行錯誤しながら、素材や置き方の違いによる「形や色」の見え方の違いに気付いていました。この時、I児は造形的な見方・考え方を働かせていたことがうかがえます。

次に、I児の作品の変容を見ていきます。

	I児の作品の変容	鑑賞タイム	ワークシートや振り返りカード
表現活動①		<p>【同じグループのJ児の製作の様子】</p>	<p>光を通すことを考えて工夫したところは、<u>プラスチックボトル</u>と</p> <p><u>あみのような物をかか</u>ねて<u>小さな氷</u>を作りまし</p> <p>た。理由はあみが<u>和葉</u>に見えたからです。</p> <p>おじいさんおばあさんに<u>わたす</u></p> <p>物なので、<u>よろこんでくれるおな</u>物</p> <p>ちゅと<u>和風</u>なものにしました。おじいさんに</p> <p>みるさいので<u>ゆい</u>かやさい色に</p> <p><u>しよう</u>と思いました。</p>

鑑賞 【中間鑑賞】 B

I 児がもらった付箋
 かんじやおもしろいと思
 いました。色は青がす
 れいと思 いました。
 この色をつまめる

I 児が渡した付箋
 40で重ねていてさ
 れいな色においては
 えさまでかかないが
 かすすと思 える

「かんじょうタイム」に友だちと話したり、友だちの作品を見たりして、
 あみとつうたん。をかきねいた。とても
 きれいで光にいろろな色 つかっていた。
 K さんの セロハンでお花の形ま
 ったところかよ かったのがもうち
 と本かくてきにパットみてまつけて
 もらえるよなごくにした。

【同じグループのK児の途中の作品】

表現活動 ②

★だれの作品のどんなよさを 自分の作品に取り入れましたか？
 だれの

K さん

どんなところを取り入れましたか。

いろろな色でいろろなしるし(ひかん花)を
 2つかつづてはりつけました。パット見ては分
 からず(けど)きれいな花かてきたと思 います。

鑑賞 【作品鑑賞】 C

作品のならべ方を考えよう！

シート	シート	シート	シート	形	形	お目
形	形	形	形	形	形	形
形	山 (のり)	山 (のり)			山	山
山 (のり)						
	家花	家花	家	山 (のり)	花	

「かんじょうタイム」に友だちと話したり、クラスみんなでならべ方を考えたりして、
 いろろなしるし(家 生き物、花、シート…)
 などの作品が あってそれぞれの考えが
 あっておもしろいと思 いました。

素材鑑賞後の表現活動①アイディアスケッチの段階では、背景をスタンドグラス風にした鳥や木を描いていました。しかし、同じグループのJ児が異素材を大きく組み合わせ、光を通すと色が入る部分がはっきりする様子を見て、つくりたいものが変わりました。ここでは、鑑賞活動を設定した訳ではないのですが、自然と「みる」ことで、[共通事項]である「形や色」、「光を通した時の感じ」に着目したことがうかがえます。

中間鑑賞では同じグループのK児の作品を見て、「赤い花がパッと見て目立つ」ことに気付いています。高齢者の視力や視覚のことを考えて、「赤を増やしたい」と思い、表現活動②で赤いメッシュ折り紙を重ねて、付け加えています。作品鑑賞では、クラス全体の作品を内容ごとに分けて、描かれた内容のある場所（宇宙は上へ配置、水の中の生き物は下へ配置、山は周りへ配置）を重視して配置を決めています。作品の内容やバランスを見るときにも、造形的な見方・考え方を働かせていることが分かります。

また、事後アンケートでI児は、鑑賞タイムは「とても役に立つ」「どこを工夫すればよいか分かった」と答えています。

このように、学級全体で見ても抽出児で見ても、段階的な鑑賞活動を位置付けることが表現に生かされていたことが見取れます。鑑賞タイムで造形的な見方・考え方を働かせながら、素材のよさや友達の作品のよさに気付いたり、自分の作品に取り入れたり、試行錯誤しながら、作品をつくりあげている過程は、「主体的・対話的で深い学び」につながっているのではないかと考えられ、本研究での手立ては有効であると考えられます。